

寿

にこにこ

前原病院 広報誌

発行日 令和5年1月1日

医療法人 慈生会 前原病院

院長 前原 弘江

慈生会の理念

慈愛の心

- 一、すべての人の人生を平等に大切に考えます。
- 一、私達はどんなときにも出会う全ての人に笑顔とやさしい言葉で接します。
- 一、私達は地域との連携を図り、患者様の社会生活を支えます。
- 一、日々新しい知識・技術の習得に努め、自らの成長のためにチャレンジを続けます。
- 一、職務を通して人間力を磨くとともに、多職種で協力し、組織の一員としての役割を果たします。
- 一、笑顔で働きがいのある職場造りに努めます。

謹賀新年



慈生会前原病院
理事長 前原 敬悟

新年明けましておめでとうございます。

2023年を迎えました。

新型コロナウイルスとの戦いは、2019年武漢で発生してついに4年目を迎えます。マスクをしていないとお店も入れない。どこに出かけても、外を歩いていると、全員がきちんとマスクをしています。しかし、テレビのニュースやスポーツで見る他国の方々は、ほとんどマスクをしていません。この差はいったい何だろうと思ってしまいます。コロナ患者の発生数は、他国も決して少なくありません。多くの新型コロナ感染患者が発生していますが、

初期の頃のようなECMOが必要となる重症肺炎を起こす患者はほとんどありません。高齢者が感染しても重症化する例はごく少数です。コロナのせいで亡くなるのではなく、誤嚥性肺炎のようにコロナ感染による合併症を併発して亡くられます。コロナ感染症の発生は爆発的に増加しているように感じます。感染力は強いがインフルエンザよりも軽いような感じもします。

新型コロナウイルスを憂いているばかりではなく With CORONA で元気を出して2023年を乗り切っていきたい年頭に当たり、改めて自らを鼓舞していきたいと思えます。昨年からの検討始めていた看護多機能居宅介護施設の立ち上げをいよいよ開始します。看護多機能居宅介護施設では、介護予防のためのサロンの運営、通所介護、ショートステイを



計画しています。この施設より、当院の入院患者さんの在宅復帰の支援、くつろぎ苑らの在宅復帰患者さんの支援拍車をかけることができると期待しています。

昨年目標としたノーリフトアップ介護の促進は、ある程度効果があったと思いますが、推進運動した時だけに終わってしまわないように、スライディングシートやスライディンググローブが備品庫で眠ってしまわないことを願いたいと思います。スタッフの腰痛は、日常生活の QOL の低下に繋がります。引き続きノーリフトアップ介護は推進していきたいと考えます。

新型コロナウイルス感染症が 2 類感染症から 5 類感染症に変更される日を心待ちにしながら頑張りたいと思います。 よろしく願いいたします。



慈生会前原病院
院長 前原 弘江

2023 年あけましておめでとうございます。

昨年末に発表されました 2022 年の漢字は「戦」でした。

「戦」で一番に思い浮かんだのは、ロシアとウクライナの「戦」でしょうか。世界にもその影響は広がり、日本でも物価上昇に歯止めがかかりません。開戦からまもなく 1 年になろうとしています。先行きは不透明です。

しかし、そんな暗いニュースも吹き飛ばしてくれる「戦」が 11 月にありました。FIFA ワールドカップ 2022 です。「ドーハの悲劇」が一転、「ドーハの歓喜」と言われましたね。悲願のベスト 8 進出にはなりませんでしたが、それでも最後まであきらめない「戦」のあり方に日本中が元気をもらいました。

医療業界での「戦」は、やはり引き続き新型コロナウイルスとの「戦」でしょうか。第 7 波、第 8 波と続き終わりの見えない状況です。福山でも感染者数が 1000 人を超える日があり、職員から感染者が出ると、現場が回らず施設間でヘルプに行ってもらうなど対応に苦慮します。一方世間では With コロナにシフトし、ニューノーマルの行動用様式や感染対策で、少しずつ各種イベントが再開されていきました。徐々に「戦」ではなく、「共」になっていますね。しかし重症化される方もおられるので、医療業界では、まだ新型コロナウイルスとの「戦」は続きそうです。

そういったそれぞれの「戦」があった 2022 年でしたが、2023 年を迎えまして、今年の目標を漢字一字で表してみました。「挑」です。医療法人慈生会は、昨年からの財政状況やコロナ禍の状況を鑑みて踏みとどまっていた新しい在宅系施設の開設に挑むことになりました。高齢化が進み、認知症や医療管理が必要な方も在宅で生活していくには、地域の方たちが協力していかなければいけません。しかし、地域でも高齢化が進み、町内会などの自治会が機能不全になっているところが多々あります。地域の自治会だけで高齢者を支えていくのは不可能です。地域の方たちと医療・介護が協力して高齢者を支えていく仕組みが必要だと思っています。私たち前原病院は、新しく作る施設と連携し、地域の方達と一緒に身体に疾患を持っていても住み慣れた地域で生活を続けられるよう、新しいことに挑み続けます。



11月17日木曜日、秋祭りを3階ハートベルホスピスで開催しました。ゲームは3種類で「千本くじ」：ビニールでできたキャラクターの人形を紐で引っ張ってもらい、何が当たるのか楽しんで頂く。「悪霊退散」：悪霊に見立てた5～6個の風船を団扇であおいで台からおとす。「ボーリングゲーム」：おもちゃのボーリングのピンをボールで倒す。食べ物、たこ焼き、わたあめ、アイスクリームの3種でした。患者様からは「よう考えたなあ」「手作り感満載じゃ」などの言葉を頂き、最後はスタッフ有志による花笠音頭で患者様にサプライズ。患者様は手拍子や歌われる方もいて大いに盛り上がりました。



12月22日木曜日、3階ハートベルホスピスでクリスマス会を新型コロナウイルス感染予防のため、2回に分けて開催しました。クリスマスの曲に合わせて患者様たちは手をふり、リズムを刻んでいらっしゃいました。今回のメインはスタッフ4人組のダンスを仮装をして、「ウイウィッシュアクリスマス」の曲にのり、軽やかに踊りました。アンコールの声が患者様からかかり、皆様の手拍子と共にもう一度ダンスを披露。そして、皆様お待ちかねの古口 Dr. サンタがトナカイを連れて登場、患者様お一人お一人にプレゼントを渡して、患者様からは喜びの声が上がりました。



11月10日木曜日、小集団活動（TQM）発表会を開催しました。病院におけるTQMとは、病院の“質”の向上を図る管理技術、経営手法のことです。短時間でチーム毎に取り組んだ内容をプレゼンテーション形式で発表しました。医事課、薬剤・リハビリ、外来、地域連携室、2階、3階など9組の発表がなされました。どのチームにおいてもセンス良くまとめられていました。



～お知らせ～

☆予防接種は、予約制となっております。

☆健康診断は随時行います。

☆前原病院人間ドックは、ご希望に合わせてメニューを組むことができますので、ご相談下さい。

☆特定健康診査、乳癌検診、福山市がん検診（胃がん、肺がん、大腸がん）実施医療機関です。

※毎週月曜日 10時～11時まで（祝祭日は除く）無料の「健康教室」を行います。

前原病院
の概要

1日平均外来患者数：52人

令和4年11月現在

平均入院日数：療養病棟 95日、地域包括病棟 24日、緩和ケア病棟 30日

1日平均入院患者数：療養病床 27人、地域包括病床 11人、緩和ケア病床 11人

内科・胃腸科・放射線科・緩和ケア内科・リハビリテーション科
慈生会 前原病院

※福山市手城町一丁目 3-41 TEL(084) 925-1086 FAX(084) 923-4504

診療受付時間

午前 8:30～12:30 / 午後 15:00～17:30
※木・土曜日午後、日曜日、祝祭日は、休診です。



<バスでお越しの方>

中国バス：鋼管方面行き

バス停「千間土手西」下車、南へ徒歩3分

<車でお越しの方>

国道2号線を岡山方面へ進み、

「千間土手西」交差点を右折

☆多編集後記☆多

お年玉はもともと年の賜物という意味です。やがて、「この年初めて授かった大切な贈り物」という気持ちのこもった意味で使われるようになりました。その気持ちはずっと続けていきたいものですね。 広報誌編集部一同

